

くにさき少年少
女 発 明 ク ラ ブ
事務局発行

発明クラブ通信



きれいだなあ！

第8回クラブ講座

「世界で一つ！おりぞめを楽しもう!!」

講師 発明クラブ

副会長 丸尾 修さん



1月11日(土)に8回目のクラブ講座がマルチホール（アグリから変更）で開かれました。毎年この時期は弥生のムラを会場にして、歴史的な文化や体験にふれる講座を開催していましたが、改修工事のため場所を変更しました。

今回は古くからつたわる「おりぞめ体験」にチャレンジして、日本の伝統的な文化を学ぶことにしました。講師は弥生のムラにも勤務して



いる丸尾副会長（写真左）に依頼しました。時間がかかるため事前の準備が大変な内容ですが、おりぞめを美しさを学ん

で、今後に活かせればと思います。

■1) おりぞめとは、しょうじ紙をおって色水につけて「もよう」のついた紙をつくる方法です。どんなもようになるかは、おり方やそめかたによってかわってきます。

■2) おり方は、四角おり・ふつうおり・正三角形おり・ふくざつおりなどがあります。まず簡単な四角おりにチャレンジ。びょうぶのようにおったしょうじ紙を、正方形の形においていきます。最後に輪ゴムでとめておきます。次

にふつうおりをおこないました。同じようにびょうぶおりの紙を、二等辺三角形になるようにおっていきます。

■3) 次は正三角形おりにとりくみました。最初おるときに、正三角形になるように30度の角度にしていきます。あとはふつうおりと同じおり方です。



(↑みなさんとても集中しておっていました。)



(←最後の輪ゴムどめが、むつかしなあ。)



■4) おってしまったら、いよいよ色水につけてそめていきます。

<注意点>

◆手につくと色がとれないのでビニール手ぶくろを必ずつけます。



(♪どの色にしようかな?)

◆色水につける時は、割りばしをつかっておもにかどっこに色をつけますが、一度紙コップの中にもどしてから持ちかえて、またつけていきます。一度にすると落としたりするからです。

◆ゴムをはずすときも、紙コップの中でとります。ゴムがはねて色がとびちるのを防ぐことができます。

注意点をまもりながら、順番に色つけがおわりました。この後は、新聞紙のうえにおりぞめた紙をひろげていき、かわかします。

さあ、どんな色にそまったか楽しみです。

↑



皆さん、講師の話をよく聞いて、とてもきれいなおりぞめが完成しました。最後に、感想発表をお願いいたしました。

○「おったり、ゴムでとめたりするのがむづかしかった。」○「いろんな色ができてとても楽しかった。」○「色水につけて、いろんな色をそまるのが楽しかった。」

おりぞめの歴史を知ろう！

おりぞめは、1953年に版画家の武藤六郎（むとうろくろう）が知人から1枚のそめ紙をもらい、その美しさに感動して始めたそうです。自分の持っていた和紙（版画用）でそめてみたそうです。おり方はいろいろで、びょうぶだたみ（アコーディオンおり）をつくり、その棒のようになった紙を、正方形や正三角形などにおり、手のひらにのるていどの大きさにしたそうです。それを染料（せんりょう）につけていき、紙を広げると連続した美しい模様ができあがり感動したそうです。

武藤は、この方法を利用して、紙子（かみこ）やびょうぶなどのすばらしい作品を完成させていきました。今は、工芸品の一つとしてこの方法が知られています。

みなさんも、自分で新しいおりぞめにチャレンジしてみませんか？

次回の発明クラブ～今年度最後です。たくさんの参加を！

■日 時・場 所～ 3月8日（土）9：30～ アグリホール

■内 容～ 閉講式（修了証・記念品など授与）、～すばらしい記念品があります。

おもしろものづくり～はつでんきを作ってみよう（へんこうすることもあります）